

ASEAN 大使通信

第 14 回 新たな 50 年のスタート

2024 年（令和 6 年）1 月 31 日



経済同友会日 ASEAN 委員会・第 4 回会合
(2024 年 1 月 26 日、写真：[トビタテ！留学 JAPAN](#) 提供)

日 ASEAN 友好協力 50 周年が終わり、新たな 50 年が始まりました。年始に日本で能登半島大地震が発生した際には、[ASEAN 外相声明](#)をはじめ ASEAN 各国の皆様から温かい[お見舞いのメッセージ](#)をいただき、心から感謝申し上げます。

私は年末年始に健康管理休暇を取り、5 年振りに日本で家族と一緒に正月を過ごした後にジャカルタに戻りました。最初の仕事は、日 ASEAN 友好協力 50 周年の成果を総括し、新たな 50 年の課題を整理して共有することでした。[代表部ウェブサイトの挨拶](#)も更新し、新年に際してのメッセージを掲載しました。今回の ASEAN 大使通信では、年初の当地での活動についてご紹介しながら、新たな 50 年のスタートに当たりどのような課題に取り組むべきか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



アタッチメント・プログラム修了式（2024 年 1 月 24 日）

●ASEAN 本部の新年

ジャカルタの ASEAN 本部では、新年の顔合わせから仕事が始まりました。ASEAN 事務局のテネ事務次長（政治・安全保障共同体担当）、ビン事務次長（官房担当）、そして豪州 ASEAN 代表部のウィル大使の離任が間近ということで、多くの歓送レセプションや夕食会が開催されました。インドネシアからラオスへの ASEAN 議長国交代後、初めての東アジア首脳級会議（EAS）大使級会合も早々に開催され、普段の仕事に戻ったことを実感しました。

カオ・キムホン ASEAN 事務総長は着任から 1 年を迎え、この 1 年間を総括し今後の方針を表明した 6 分半の[ビデオメッセージ](#)を発表しました。日本関連の写真も多数紹介されています。本年のラオス ASEAN 議長国の[ウェブサイト](#)には、[年間日程](#)が早速掲載されました。1 月 26 日には、ビエンチャンで[ASEAN+3 観光大臣会合](#)が開催され、日本から[國場幸之助国土交通副大臣が出席](#)しました。

ジャカルタでは、1 月 24 日に ASEAN 本部で[アタッチメント・プログラム修了式](#)が開催されました。[このプログラム](#)は、ASEAN 統合イニシアティブ（IAI）の一環として、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV）各国の若手政府職員を ASEAN 事務局に 1 年間派遣し、参加者の行政実務能力の向上と ASEAN の域内格差の是正を目的とするもので、[日 ASEAN 統合基金（JAIF）](#)により支援しています。シン事務次長、エカパーブ事務次長、ASEAN 各国常駐代表の参列を得て私も[挨拶](#)し、12 名に修了証書を手交しました。2024 年からは、東ティモールの政府職員もプログラムに参加予定です。



ジャカルタ・ジャパン・クラブ（JJC）法人部会新年会（2024 年 1 月 26 日）

●在ジャカルタ日系企業の新年会

1 月 26 日、[ジャカルタ・ジャパン・クラブ（JJC）](#) 法人部会の新年会に出席しました。この新年会は、コロナを経て昨年再開し、本年は 300 人規模でジャカルタの市内ホテルで開催されたものです。冒頭、上田裕之 JJC 理事長、永井克郎在インドネシア日本国大使館臨時代理大使に続き、私からも新年のご挨拶をさせていただきました。

ジャカルタの日本企業の皆様には、昨年の日 ASEAN 友好協力 50 周年に際して、8 月の ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）と ASEAN 事務総長との対話、9 月の日 ASEAN フェア、11 月のウォーク＆ラン行事、ジャカルタ日本祭りのゲーム企画に参加・支援いただきました。官民連携を通じて日本の強さを大いに発信できたことに、心からの感謝を申し上げます。

そして、[昨年 12 月の特別首脳会議の成果](#)を報告し、日系企業の皆様が、インドネシアでのビジネスを ASEAN 全域に展開する際に、今回発表された様々なイニシアティブも活用できる旨をお伝えしました。日系企業の ASEAN 全域での発展は、日本と ASEAN の双方、更にはインド太平洋や世界に貢献するものです。ASEAN 代表部大使として、日系企業の ASEAN での展開を引き続き応援していく考えです。お気軽にご連絡ください。



経済同友会・日 ASEAN 委員会第 4 回会合
(2024 年 1 月 26 日、写真：経済同友会提供)

●経済同友会・日 ASEAN 委員会のイニシアティブ

同じく 1 月 26 日に、経済同友会・日 ASEAN 委員会は[第 4 回会合](#)を東京で開催しました。「日 ASEAN 友好協力 50 周年の成果、今後の日 ASEAN のパートナーシップの姿」をテーマに、広く日 ASEAN 官民関係者を招いて、講演・報告や次世代との対話セッションが行われました。

私はオンラインで[基調講演](#)を行い、日 ASEAN 友好協力 50 周年の成果は何か、51 年目からの課題は何か、誰がどのように実践するか、という 3 つの問題提起を行いました。そして最後に、(1)「多様な担い手」の「見える化」が第一歩であること (50 周年に参画した主体がそれぞれ行動を起こし、「たいまつ」を掲げる)、(2)「プラットフォーム」を通じた連携と「ハブ」の役割が鍵となること (多様な担い手が「ベクトル」を合わせ、「付加価値」を協創する)、(3)「日本」と「ASEAN」から「インド太平洋」と「世界」に広げていくこと (各国・各地に根差した「多様性」を取り込み、「普遍性」を目指す)、(4)「60 周年」や「100 周年」を視野に入れること (成果を共有・発信する「マイルストーン」に向け、「夢を現実化」する)、の 4 点を提示しました。

今回のフォーラムは、政府・企業関係者のみならず、日 ASEAN 双方から起業家や留学生が多数参加して、活発な意見交換が行われました。次世代人材育成・還流のコア・プログラムの年内立ち上げに向けて、引き続き応援したいと思います。



日 ASEAN ラウンドテーブル（2024 年 1 月 30 日）

●日 ASEAN ラウンドテーブル

1 月の最終週にはマレーシアのクアラルンプールに初めて出張し、ISIS マレーシア主催の[日 ASEAN ラウンドテーブル](#)に参加しました。このラウンドテーブルは、地政学・地経学的な状況変化が日 ASEAN 関係にどのような影響を与えるかを分析し、今後の日 ASEAN 政治・安全保障協力や経済協力を進めるための戦略を議論すべく開催されたものです。

私は[基調講演](#)で、「信頼と共創を通じた平和と繁栄：日 ASEAN 協力の次の段階」をテーマに、（１）信頼を育む幅広い人的ネットワークの強化、（２）共創を通じた経済的・社会的利益の実現、（３）AOIP の実施と主流化を通じた共有する価値と原則の推進の３点の重要性を訴えました。引き続き、日 ASEAN 双方の参加者により、政治・安全保障と経済の両面から活発な議論が行われました。

日本と ASEAN はビジョンを共有しており、その実現のために具体的協力を進めていくことが、昨年の特別首脳会議で確認されました。今は、これを実行に移すことが最大の課題です。日 ASEAN の双方に向けて、このメッセージをあらゆる機会に伝え、担い手の輪を広げていきたいと思います。皆さんも是非様々な形でご参加、ご協力いただければ幸いです。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦